

委員会の焦点

～委員会審査報告から～

中心市街地活性化事業費を審議

市街地活性化特別委員会

平成22年度予算について、駅周辺整備事業として、駅前公園、駐輪場整備、観光交流センター事業費として3億8千300万円余。交通発着ゾーンとしての駅前機能強化、現こあしおじりの商業機能活性化、福祉施設、住宅施設等の民間活力による中心市街地活性化を促進するため、駅南地区市街地再開発事業費として3億300万円。中心

市街地の核店舗の撤退による空きビル再生のため、店舗の改修や設備等の修繕工事を実施し、活性化に向けて、賑わいの創出や都市機能の充実を図るための施設購入費9千800万円が計上されました。ビル購入に対するこれまでの経過と再生計画の説明があり、この中で、出店申込者7社8店舗の一覧が示されました。委員から、施設購入費9千800万円について、公益性の部分で理解できない。時間をかけて行うべき、民間の業に行政が

手を出すのは反対、として修正案が提出されました。中心市街地活性化の為に早急に再生に取り組むべき、との修



大門ショッピングセンター取得費を削除する修正案は賛成少数で否決

修正案に対する反対意見が出され、採決の結果賛成3、反対8で修正案は否決され、原案のとおり可決すべきものと決しました。また、店舗の改修や修繕工事の設計費用等の平成21年度一般会計補正予算案が提出されました。施設購入が決まってから出すべき、順序が逆との理由等で修正案が提出されましたが、採決の結果賛成3、反対8で修正案は否決され、原案のとおり可決すべきものと決しました。

農業再生に向けた農業公社設立へ

経済建設委員会

当委員会に付託された議案は、予算11件、市道路線の廃止及びび認定1件の計12件で、慎重審査の結果いずれも原案のとおり可決すべきものと決しました。平成22年度塩尻市一般会計予算については、厳しい経済状況の中、雇用対策事業の若年者就業支援事業、ミニジョブカフェ事業を「えんぱーく」においてどの様に実施していくの



市は、4月1日から農業公社開設準備室を立ち上げた

かとの質問に対し、塩尻市地域職業相談室が北庁舎から「えんぱーく」に移転することにより、これからの機関と

連携を図って実施していくと説明がありました。塩尻市農業公社は、本市農業の諸課題を解決するため、行政と農業団体、商工事業者等との連携により、諸事業を展開し農業の発展と地域社会の経済活性化に寄与することを目的とし、設立する説明を受け、構成員は塩尻市とJA塩尻市・洗馬となつているが、両JAの全面協力がなければ農業公社は出来ないと思うがどうかとの質問に対し、両JAの協力がなければ進められ

ないので、現在事業計画等について詰めている。JAからの出捐金については、総代会等の承認が必要であり、決定いただくようお願いしているとの答弁がありました。中小企業融資あっせん事業については、景気等の状況を見ながら対応を図っていくとの説明がありました。観光看板の設置については、奈良井・贄川までは中山道として整備されている、本山宿もそれにならない設置するとの説明を受けました。